

阪神淡路大震災の取材映像を一般公開

震災取材アーカイブに学ぶ明日の防災
～「25年前の映像」は何を伝えるのか?～

1月10日(金): 震災取材アーカイブ映像を公開する専用WEBサイトを創設し、情報発信を開始

朝日放送グループホールディングス株式会社(本社:大阪市福島区、代表取締役社長:沖中 進、以下ABC)は、グループCSR活動の一環として、阪神淡路大震災の発生から25年を迎える2020年1月より、防災・減災のために広く活用していただけるよう、当グループが保有する震災映像を多様な方法で公開します。

本取り組みの第一段階として、1月10日(金)、震災取材アーカイブ映像を公開する専用WEBサイトをABCテレビ公式ホームページ内に創設し、情報発信を開始します。

本企画の背景と意図について

6434人の死者を出した阪神淡路大震災から、来年で“四半世紀”になります。未曾有の大震災にもかかわらず、25歳以下の若者にはその記憶すらなく、「歴史上の災害」になりつつあります。

この震災は、発生の瞬間と、その後の復興プロセスが映像でつづさに記録された、世界で初めての大地震です。ABCのライブラリーには、それを取材した貴重な映像が多く収められていますが、被災者の肖像に関する権利意識の高まりや、報道記者の若年化・視聴者の意識の変化など、さまざまな事情から十分に活用できていないとは言えません。これは、放送局だけでなく、研究機関や災害ミュージアムなどが共通に抱える課題です。

25年前、困難な状況だったにもかかわらず、多くの被災者の方々は、私たちが取材で投げかける質問に対して真摯に答えてくださいました。そして、カメラに残していただいた姿や言葉があったからこそ、私たちは今も、教訓を拾い上げることができます。本当にありがたいと、感謝しています。

映像から読み取れる「教訓」。それを無駄にしたくない。

不幸にも起こってしまった災害を「後世に伝えること」こそ、マスメディア企業の社会的責任と捉え、弊社が保有する「阪神淡路大震災映像アーカイブ」の一部を、WEBサイト等で公開することにいたしました。取材に答えてくださった方々の名誉を傷つけないよう慎重かつ最大限の配慮を払いつつ、近年頻発する自然災害の「防災・減災」に活かそうとするものです。

そして、これら取り組みを起点に、自然災害に関する映像記録が広く多様な社会に還元されるシステムにつなげ、持続的な利活用を図ることを目指して参ります。

映像一般公開の詳細について

1、「阪神淡路大震災取材アーカイブ公開専用サイト」の創設

- ▷ 1月10日（金）5：00公開
- ▷ ABCテレビホームページ内サイト（https://www.asahi.co.jp/hanshin_awaji-1995/）

災害直後の厳しい状況のなかでABCテレビの取材に応じて頂いた被災された方々の思いを損ねることなく後世に伝え、将来にわたって教訓を拾い上げられるようにするために、取材映像の一部を弊社WEBサイト内特設ページで公開します。可能なかぎり動画による公開を目指しますが、取材を受けて下さった方々の名誉を傷つけないようにするため、静止画・音声・文字など、さまざまな形で公開を模索します。公開の内容や形式には、事前の学生ワークショップや研究会で頂いたご意見を最大限反映します。



サイトマップイメージ

2、「激震の記録」上映会＆展示イベントの開催

- ▷ 2月2日（日）：10：00～17：00（予）：
- ▷ ABCホール(大阪市福島区福島1丁目1番30号)：入場無料

25年前の8月に弊社が放送した特別番組「激震の記録」をベースとした当時の映像を上映します。また「災害映像アーカイブに学ぶ、今と未来の防災・減災ソリューション」(予)と題して展示会を開催します。

当時のアーカイブ映像から、救助、避難所、食料などの分野ごとに改めて「課題」や「教訓」を抽出し、命と暮らしを守る情報(防災関連展示品ほか)に換え、直面する災害多発時代に「活かす」取り組みです。あの震災から25年が経過した今、未来に向けた最新の課題解決の方法をご覧ください。

映像一般公開までのプロセスについて

1、見える化 「災害映像アーカイブ」を25年たった今、2020年仕様にアップデート

映像の中で被災者が発している「言葉」の中には、今後の災害でも起こりうる「教訓」が多く含まれています。震災を知らない世代の記者が、膨大な映像すべてを見直さなくてもその内容や現場の状況が理解できるよう、記者レポートやインタビューなどの文字起こしを行い、アーカイブ映像の「見える化」を行いました。

ON:記者「午前6時半です。あたりが空、しらみかけてきましたが、芦屋市の大原町というところなんです、手前にあります民家から火が出ました。漏電が原因ではないかとみられています。その火が隣の民家に燃え移っています。」

ON:男性「燃えなくて済むのをね。」

ON:記者「でも、全然水の勢いがね。」

ON:男性「足りないでしょ。素人が見たってわかる。」



アーカイブ素材より

2、学生ワークショップ 「震災を知らない世代が見た『阪神淡路大震災映像』」

※11月16日（土）に当社にて開催しました。

阪神淡路大震災を経験していない大学生達にABCテレビの震災アーカイブ映像を視聴して頂きました。さらに

- 1、彼らがどんな映像に驚いたのか……放送等で活用できていない映像はどんな映像か。
- 2、映像の中に「後世に伝えるべき教訓」はあるのか……映像で伝えられる教訓とは何か。
- 3、「伝える価値がある」と評価した映像はどのような形で視聴できると思うか。

などの点について、学生の「新鮮な目」で評価をしていただきました。

3、研究会 「アーカイブ活用の効果と、そのために克服すべき課題」

※12月6日（金）に当社にて開催しました。

災害や映像アーカイブ、肖像権等に詳しい研究機関・学術研究者（下記）をお招きして研究会を行いました。災害アーカイブの保存や公開に関する課題を共有するとともに、学生ワークショップで集めた意見・感想や、アンケートの結果などを踏まえ、より効果的な活用法を議論しました。

《ご協力いただいた研究者の皆さま》（敬称略、五十音順）

- 石原 凌河（龍谷大学,政策学部,准教授 社会システム工学・安全システム）
佐藤 翔輔（東北大学, 災害科学国際研究所, 准教授 情報社会トラス）
曾我部真裕（京都大学大学院法学研究科教授 公法学 公共放送 / 報道の任務）
牧 紀男（京都大学防災研究所教授 / 人と防災未来センター震災資料研究主幹）
松山 秀明（関西大学社会学部准教授 映像アーカイブ論）

朝日放送グループのCSRについて

朝日放送グループでは、今年度、近年の大規模自然災害の頻発を受け、グループCSR方針《行動指針》のひとつ◆明日の暮らしへ…『地球環境と人の営みを大切に、命と暮らしを守る情報を届けます』により注力し、自然災害や防災・減災情報につながる情報発信と取り組みを行っています。

（詳細：公式HP <https://corp.asahi.co.jp/ja/csr/index.html>）

以上